

UN/CEFACT 及びAFACTでの今後の活動（案） －EPs Project（V2）他対応

2023年1月19日

国連CEFACT観光部会

鈴木部会長

国連CEFACTでの標準化活動案

記事

A.
EPsプロジェクト



V2への動き

1. V1の成果をAPI化する。
2. Sustainability Claim ClassのBIEsの開発
3. Data等の更新

新たにプロジェクト
を起こさないで、
DMRとしての
対応を検討するか？

B.
STプロジェクト



V2への動き

1. 当面は現在Bureauに提出中のDraftの判断待ち
2. Business Standardsの開発内容の確認と改善
3. 自己評価の手法の改善
4. 自己評価等の活用方法の開発
5. その他

現在のSTプロジェクト
リーダーは、この改善
プロジェクトの対応
は消極的

C.
新たな動き
(台湾提案)



旅行業界のバックオフィス業務対象：

1. 行程表、
 2. 見積書、
 3. 清算と支払い関連業務
- の標準化
(旅行会社相互間、現地手配事業者と旅行会社間等)

日本の旅行業界の
必要性は

AFACTでの新たな活動案

下記の対応案がある。

1. UN/CEFACT T/T Domainの成果の活用

EPs技術仕様の実務への活用

- a. パイロットプロジェクトの設立
- b. 実務プロジェクトの立ち上げーAFACTの枠を超えるか？

2. 新たな検討プロジェクトの対応

UN/CEFACTのプロジェクトにする前のAFACT地域としての検討課題

昨年12月に開催されたAFACT総会で新たなプロジェクト案が提案されたが、その中でTT&L部会の対応として検討が求められた事項は以下のようである。

a. Sports Tech DataのData Altruism対応

スポーツに関係して入手したデータを個人情報の再利用の許可を得て公益のために利活用する（健康管理等のために）方法等の開発（台湾IIIの提案資料あり）

b. MaaS 対応

SmartCity構想の中でAFACTで検討をしたい（台湾高雄市と小田急電鉄の検討案があるということであるが提案資料は今後提出の予定）